

ジャノメチョウの生活③晩夏～晩秋(卵・孵化・越冬前)

ジャノメチョウは、生態図鑑^(※)によれば、

「産卵は8月末から9月にかけて行われ、卵は1～2か月で孵化、若齢幼虫で越冬」し、

「野外での越冬中あるいはその前後の幼虫採集例は多くない。」

という。

春の若齢から終齢・蛹・成虫と生活を見てきましたが、夏後半～越冬前の幼虫を追ってみたいと思います。

(※原色日本蝶類生態図鑑(IV))

まずは、採卵から

ジャノメの越冬について知ろうと考えたとき、孵化がいつ頃？それに伴い、野外の一齢の発見でした。実際の一齢幼虫を見たこともなかったので、採卵から始めてみました。



16/8/10 美々：いつものフィールド美々に行くとたくさんのジャノメが吸蜜をしている。まず♀をゲット。その日からプラケースに入れ採卵開始。



百均のキッチン用ケースに一頭ずつ入れ、食草？を入れ、乾燥防止と吸蜜用にポカリをティッシュに含ませヨーグルトの蓋に入れておくと→ → →

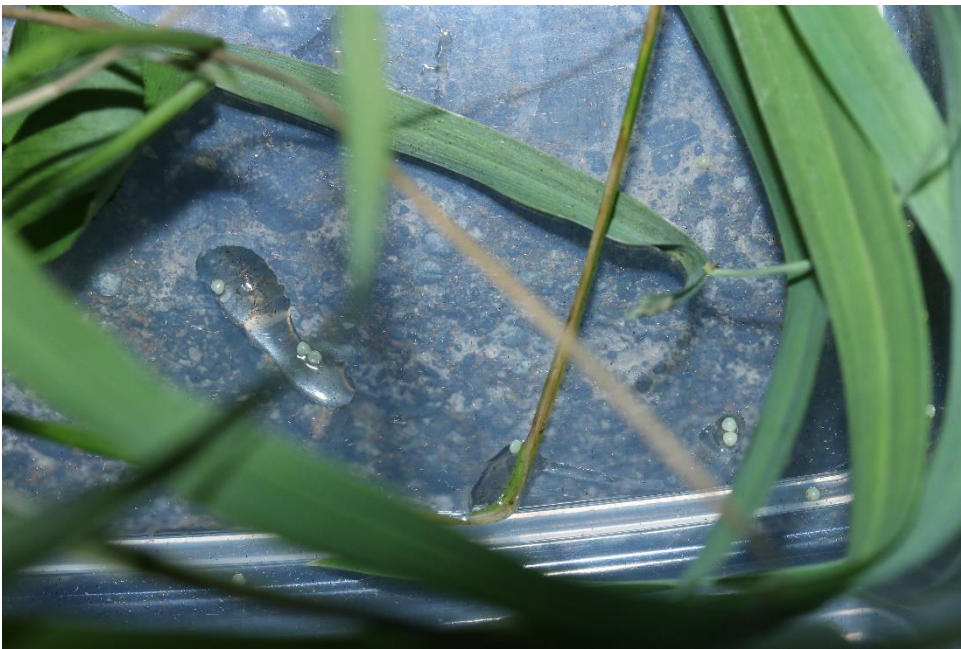
16/8/11:
この様に数十個の卵が産卵されていた。

なるほど、これが放卵。
食草には直接産まず、ケースに転がっている。

鱗粉もたくさん落ちている



卵増産を期待したが、横浜帰還後、あまりの暑さに♀は死亡。卵は乾燥させない様に湿らせたティッシュを入れて孵化を待った。



16/10/6: 横浜



ジャノメ早採集が8/10。翌日には卵が産まれていたので、ほぼ二か月。卵が生きているのかもわからずここまで来ている。

乾燥を防ぐために、定期的に水分で潤している。

①カビも生えているし、つぶれた卵もある。つぶれていないものも生きているものやらどうやら...

職場の実体顕微鏡で見ると何がなんだかわからないが...

②顔のようなもの。「殻」のようなもの...

①つぶれた卵

③死んだ幼虫??

①生きているの?

④初めて見た幼虫

②顔のようなもの?

②殻?

あちこち見ていると
③もしかして、もしかして死んだ幼虫?
を見つけて...
④ほどなく幼虫発見!
これがジャノメか!?

職場で思いがけず発見した幼虫。(10/6)
これがジャノメ?と思いながら。でもジャノメじゃない。これが一齢幼虫か、孵化したんだ。早く生まれたものが死んでもいたんだ...

と、この日の午後、北海道に出発した。



16/10/9 美々

北海道はだんだん秋が深くなってきた。

(故)永盛拓行氏に同行をお願いし、ギンイチ・エゾシロ越冬巣・ミヤマセセリを観察後、美々入り。
いるかどうかあやしい(?)ジャノメ幼虫を探した。
(拓行氏はHPでご一緒させて頂いている永盛俊行氏の実兄。辻も随分お世話になりました)



↑二人はイネ科の茂る草原に這いつくばり、一時間ほど必死に探すも未発見。たまにイネ科の種子が落ちていると、「これは!？」と幼虫と間違え、辻は勝手に「擬態なの？」と感じた。

二人とも疲れて、ちょっと場所を変えましょう、と探し始めた時でした。

小さな何かがイネ科の葉っぱに。

横浜で見た感覚で「ジャノメではない!」と感じるも、よく見ていくと…、やはり、何とジャノメ。

登ってきて摂食を開始。14:15でした。



16/10/9 美々：二人のジャノメ撮影会

何しろ、相手は小さい。カメラを覗くと幼虫がどこにいるかわからなくなる。お互いに位置を教えあい見失わないように延々40分？撮影。・・・と、突然下に向きなおし、葉を降り始めた。あれよあれよという間に下がって草むらへ。一度視線をはずすと・・・あれれれれれ！見失ってしまった！！
もう後の祭り。二度と発見はできなかった。



↓ 食べ始め
↓ 食痕が広がる
葉のカーブに合わせて体を曲げて摂食↓
食べた葉の緑色が体内に見える↓ ↓



14:20



14:31



14:44



14:55



14:57



14:58

↑14:55
拓行氏、必死の撮影！

下がる幼虫。脚の影がシルエットに ←

食べていた葉をとり、食痕を撮影 → → →

野外における、初の一齢幼虫との出会い。二人とも喜び、興奮が収まらずでした。

16/10/10横浜

前日、美々で初めて一齢を見て帰宅
翌日、横浜で嬉しい出来事。

帰宅した9日に卵のシャーレを見るも孵化はなく、10日起床後「ろ紙」を湿らせておいた。午後になり見てみると幼虫が孵化していた。



18/10月：横浜

2018年も同様に採卵し、孵化を見ることができた。
16年よりは、より良く観察できたので紹介します。



10/5 孵化前の卵



10/8 孵化した一齢幼虫(卵との関係が良くわかる?) 大きさ3mm位?



2018年は8/5に♀を採集して採卵した。最初の孵化発見が10/8で、2016年同様、ほぼ二か月かかって孵化したことになる。飼育して10月下旬まで行けたが、最後は死亡してしまった。

何種類かのイネ科・カヤツリグサ科の植物を入れて飼育した。
適格な食草ではなかったのか、摂食は見られるも、一齢のまま死亡してしまった。

10/11 2018年は複数の幼虫が誕生。スゲ? に集まった。
右の幼虫は卵殻が頭についている



10/31 この日に最後の幼虫が一齢のまま死亡



越冬前幼虫探し①18/10/17美々

①18/9/23このように草刈りが行われ幼虫が探しやすそう。ジャノメ卵を放卵してもある↓



②10/17早朝だけのジャノメ探し。6:46着・7:46発見。ナガハグサ?の下に隠れていたが見失う↓



③もう一頭発見も、やはり見失う。

ようやくもう一つ株直下で発見したのが、9:50。何と最初の幼虫から二時間経過していた。1齢か? 自宅に残してきた幼虫と比較するとずいぶん太っているように感じる。幸運にもこの個体はイネ科の幹に登ってから静止した。



このように草が刈られている中で、幼虫さえいれば、比較的見つけやすい環境にある。黄色い円があたりに放卵した箇所。赤の株の下が幼虫がいる箇所。

越冬前幼虫探し①18/10/17美々

最後の撮影が10:44だから一時間撮影タイムだったようで、いつものことながら「う～ん、時間使いすぎ！」



↑刈り取られた明るい草原の食草の株元で一齢が見つかった。

せっかくなので、ここにトレイルカメラを仕掛けてみた。
この個体は13:30に食草に登り16:00に降りていた。ずっと摂食ということではないようだった。また、夜間は動く幼虫は写っていなかった。

休んでいる時は
この様に
体を縮めている→

越冬前幼虫探し②20/10/2厚真

①探し始めるが、シカの食痕が多くて、幼虫の食痕がわからない... あきらめず探して...

...と、「?食痕!？」 ↓



②葉を引き寄せると下の方に何か...。ジャノメだ！(11:47)



③3mmほどの一齢幼虫のようだ。
ジャノメは二か月ほどかけて孵化するので、8月上旬産卵として、孵化後間もない? ↓



晩夏から初冬にかけてのジャノメチョウの生活で、

産卵から孵化には、「およそ二か月かかる」。北海道で採卵し、本州で置いておいた卵もそうですが、富良野における永盛氏の採卵でも同様の結果が得られています。

美々では、10月上旬には孵化、一齢幼虫は摂食しながら成長。観察例は、16/10/9一頭、18/10/17三頭、20/10/2一頭、のみになります。全で一齢でした。

早春に見つかる幼虫は二齢がほとんどだったことから、年内中に二齢になるとするならば、是非探してみたいとは思いますが...。未発見。

逆に、春先に脱皮して二齢になる可能性もありかも...

因みに、18/11/6午前中まるまる使うも、幼虫は未発見でした。

(代わりとっては何ですが、死亡した蛹を発見できました。)

また初冬の幼虫たちは、明るい時間帯に活動しているらしきことがわかります。